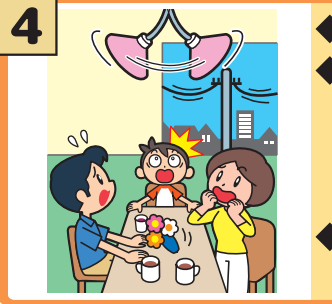
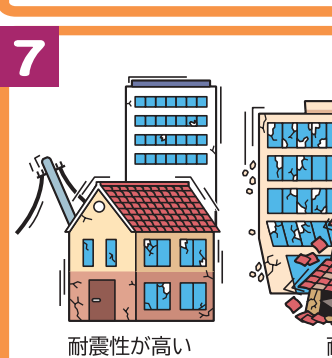


大きな地震が発生したときは、一瞬の判断が生死を分けることがあります。いざというとき慌てず冷静な行動をするために地震の基礎知識を知って、「地震発生時」「地震発生直後」「地震発生後」の基本的な行動パターンを覚えておきましょう。

震度による揺れと想定される被害

0  ◆人は揺れを感じない。	1  ◆屋内で静かにしている人の中には、揺れをわずかに感じる人がいる。	2  ◆屋内で静かにしている人の大半が、揺れを感じる。 ◆電灯などのつり下げものがわずかに揺れる。	3  ◆屋内にいる人のほとんどが、揺れを感じる。 ◆棚にある食器類が音を立てることがある。
4  ◆ほとんどの人が驚く。 ◆電灯などのつり下げものは大きく揺れ、棚にある食器類は音を立てる。 ◆不安定な置物が倒れることがある。	5弱  ◆大半の人が恐怖を覚え、物につかまりたいと感じる。 ◆棚にある食器類や本が落ちることがある。 ◆固定していない家具が移動することがあり、不安定なものは倒れることがある。	6弱  ◆立っていることが困難になる。 ◆固定していない家具の大半が移動し、倒れるものもある。ドアが開かなくなることがある。 ◆壁のタイルや窓ガラスが破損、落下することがある。 ◆耐震性の低い木造建物は、瓦が落下したり、建物が傾いたりすることがある。倒れるものもある。 耐震性が高い 耐震性が低い	6強  ◆はわないと動くことができない。 ◆固定していない家具のほとんどが移動し、倒れるものが多くなる。 ◆耐震性の低い木造建物は、傾くものや倒れるものが多くなる。
5強  ◆物につかまらないうと歩くことが難しい。 ◆棚にある食器類や本で落ちるものが多くなる。 ◆固定していない家具が倒れることがある。 ◆補強されていないブロック塀が崩れることがある。	7  ◆揺れにほんろうされ、動くこともできず、飛ばされることある。 ◆耐震性の低い木造建物は、傾くものや倒れるものがさらに多くなる。 ◆耐震性の高い木造建物でも、まれに傾くものがある。 耐震性が高い 耐震性が低い		

出典：気象庁

地震発生！そのときどうする？

大きな揺れを感じたら、最優先で身の安全を確保します。その後、周囲の状況などを確認して、危険がある場合には避難場所に向かいます。発災後は自助・共助の心で主体的に行動しましょう。

「地震発生時」の行動

地震発生！まずは身の安全を確保する

- ◆緊急地震速報や大きな揺れがあったときは、まずは身の安全を最優先に行動する。
- ◆丈夫なテーブルの下や物が「落ちてこない」「倒れてこない」「移動してこない」空間に身を寄せ、揺れがおさまるまで様子を見る。
- ◆屋外にいる場合は、建物の倒壊や落下物に注意する。手荷物などで頭を守り、広場などへ移動する。



【高層建築物にいるとき】

- ◆高層階では、揺れが数分以上続くことがある。
- ◆大きくゆったりとした揺れで、家具類の転倒や落下、または大きく移動する危険がある。
- ◆エレベーターに閉じ込められた場合は、非常ボタンなどで外部と連絡をとり、慌てずに救助を待つ。

【車を運転しているとき】

- ◆運転中に大きな揺れを感じたら、徐々にスピードを落とし、道路の左側に停止してエンジンを切る。
- ◆車を離れるときは車検証などの貴重品を持ち、緊急車両のさまたげにならないようキーはつけたままでロックもしない。

「地震発生直後」の行動

火元の確認と初期消火

- ◆火を使っているときは、揺れがおさまってから慌てずに火の始末をする。
- ◆出火したときは、落ち着いて消火する。



慌てた行動はケガのもと

- ◆屋内では、転倒・落下した家具類、割れたガラスの破片などに注意し運動靴などを履く。
- ◆瓦、窓ガラス、看板などが落ちてくる危険があるので外に飛び出さない。



出口を確保する

- ◆揺れがおさまったのを確認してから、ドアや窓を開けて避難ができるように出口を確保する。



危険箇所から離れる

- ◆屋外で揺れを感じたら、ブロック塀や電柱、看板、自動販売機、橋などには近寄らない。



「地震発生後」の行動

状況に応じた避難

- ◆家屋倒壊のおそれがあったり、近隣に大きな火災が発生したときは、安全な場所へ避難する。
- ◆車での移動は、避難者や緊急車両のさまたげになるため徒歩で避難する。



近所の人々の安否を確認

- ◆わが家の安全を確認後、近隣の安否を確認する。
- ◆高齢者、障がい者などの避難に時間のかかる要配慮者には特に注意を払う。



正しい情報を集める

- ◆テレビやラジオ、行政、消防、警察など信頼できる機関から正しい情報を得る。
- ◆災害時に増えるデマや憶測に惑わされないようにする。



救助活動に協力する

- ◆倒壊家屋や転倒家具の下敷きになった人を、周囲と協力して救助する。



自宅での避難を考える

- ◆建物の耐震性に問題がなく倒壊のおそれがない場合、自宅での避難生活を考える。そのための水や食料、日用品を備蓄しておく。



避難の前に安全確認

- ◆避難が必要になったときは、ブレーカーを落とし、ガスの元栓を閉めてから避難する。



緊急地震速報とは？

緊急地震速報は、地震の発生直後に震源近くで初期微動をキャッチし、強い揺れが始まる直前に知らせる情報です。最大震度5弱以上が推定される場合に、テレビやラジオ、携帯電話などを通じて知らせます。緊急地震速報から揺れるまでの時間は、わずか数秒から十数秒程度と極めて短く、震源に近い所では速報が間に合わないこともあります。身の安全を守ることを最優先に行動しましょう。

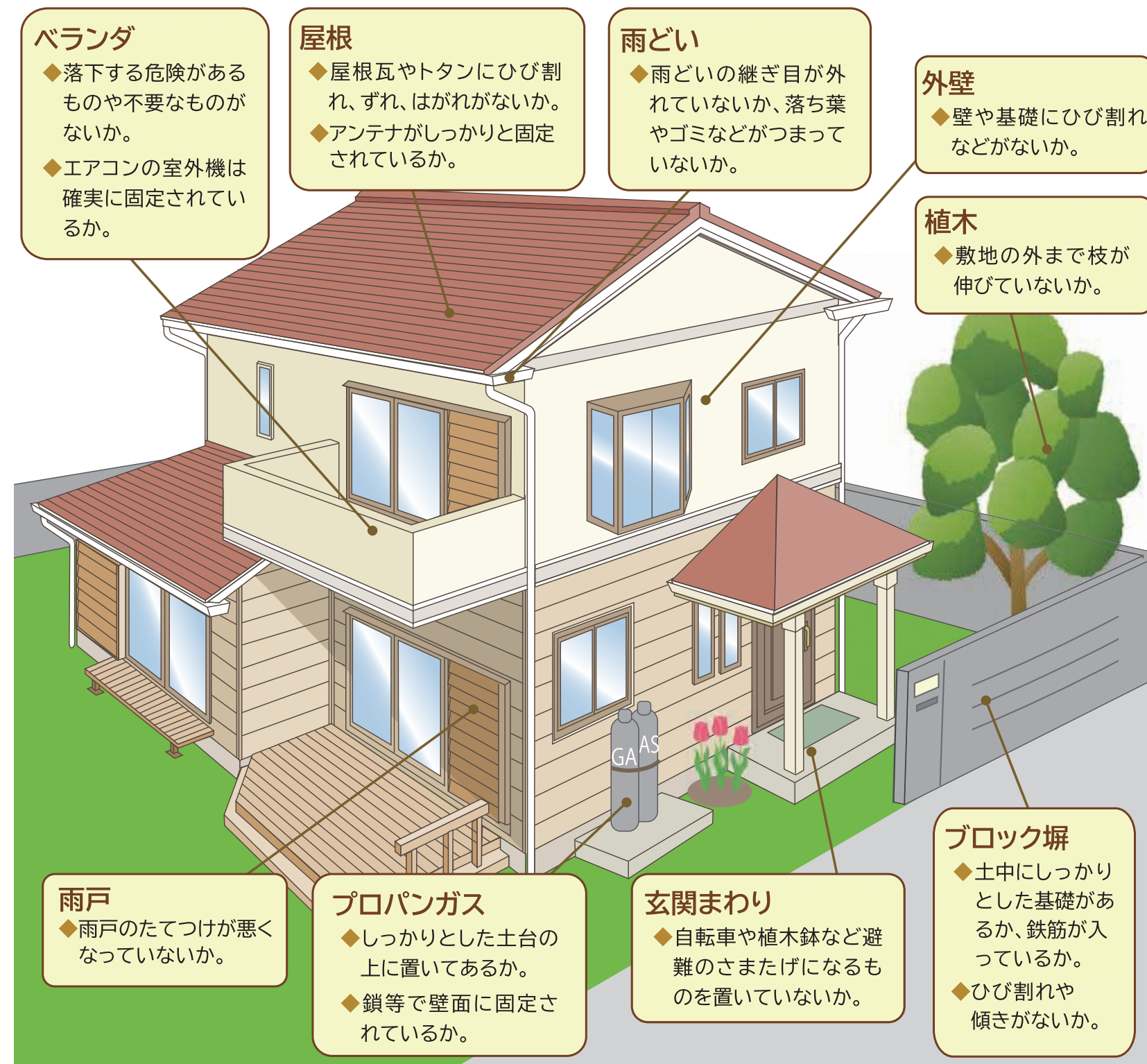


わが家の地震対策

家のまわりや家の中には危険なものがたくさんあります。地震によるケガの多くが家具の転倒や移動が原因となりますので、家屋の点検や家具を固定するなど、できることから安全対策をはじめましょう。

また、古い家屋については、現在の基準と比較して耐震基準が満たされていない場合もあります。その場合、耐震診断を受け、問題があれば耐震改修工事などを行いましょう。

家屋等の点検のポイント



木造住宅の無料簡易耐震診断について

地震による被害を最小限にとどめるためには、住宅の耐震性の確保が重要となります。

耐震性の確保には耐震改修工事が必要となりますが、その前に、今の住宅がどの程度の耐震性を持っているかを知ることが大切です。市では木造住宅（2階建て以下の建物）を対象に、無料の簡易耐震診断を行っています。

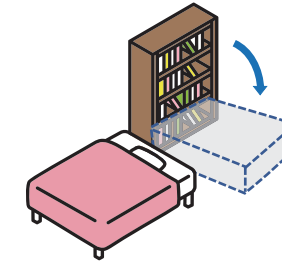
問い合わせ：都市整備部建築開発課建築指導担当 ☎048-550-1551



家の中の安全対策のポイント

寝室は家具を減らす

- ◆就寝中に倒れた家具の下敷きにならないよう寝室には大きな家具を置かない。
- ◆万が一、家具が倒れた場合に備えて設置場所を検討する。



家の中に安全なスペースを作る

- ◆家族が家具の転倒や落下を避けて集まることができる安全なスペースを確保する。
- ◆大きな家具は人の出入りが少ない部屋にまとめておく。



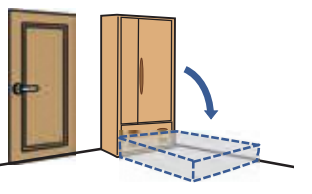
収納を工夫する

- ◆重いものを下に、軽いものを上に置き、重心を下げて倒れにくくする。
- ◆家具の上に落ちやすいものを置かない。



避難経路を確保する

- ◆玄関などの出入り口や通路付近には家具や荷物を置かない。
- ◆家具が倒れたときに避難のさまたげにならないよう家具の配置を工夫する。



家具の転倒、落下を防ぐポイント

タンス・本棚など

- ◆L字金具やつっぱり棒などで固定する。
- ◆家具と天井の隙間を段ボール箱などで埋める。
- ◆二段重ねの場合はつなぎ目を金具でしっかりと連結しておく。
- ◆家具の下に板などをはさみ、壁面にもたれさせる。

テレビ

- ◆できるだけ低い位置に置き、金具やワイヤーなどで壁や台に固定する。
- ◆キャスター付きの台はなるべく避け、使う場合はストッパーをかける。

窓ガラス

- ◆窓などの板ガラスには、飛散防止フィルムを全面に貼る。
- ◆カーテンは防災加工された物を使う。

食器棚

- ◆扉が開かないように留め具をつけ、中の食器が飛び出すのを防ぐ。

ガスコンロ

- ◆自動停止装置付きのものを使用する。

照明器具

- ◆1本のコードでつるすタイプのは、鎖と金具で数か所留める。直付けタイプがより安全。

冷蔵庫

- ◆動かないようワイヤーで固定する



出典：政府広報オンライン

感震ブレーカーをご存じですか？

地震による火災のほとんどが、破損した電化製品や電気配線が通電時に発火することなどが原因として発生する「通電火災」です。強い揺れを感じると自動的に電気を遮断する感震ブレーカーがあれば通電火災を防ぐことができます。

自分で簡単に取り付けできるもの、電気工事が必要なものなど複数の種類があるので、家庭の事情に合ったものを取り付けましょう。